第２回橘港港湾脱炭素化推進協議会　議事概要

日　　時　：　令和６年３月２２日（金）１０：４０～１２：００
場　　所　：　徳島グランヴィリオホテル　１階
開催形式　：　対面形式

【議事概要】

（議事２－１：橘港港湾脱炭素化推進計画の検討）
　徳島県県土整備部運輸政策課より、橘港港湾脱炭素化推進計画の概要、ＣＯ２排出量の推計方法、アンケート及びヒアリング調査、ＣＯ２排出量の推計、橘港港湾脱炭素化推進計画の目標について説明

（議事２－２：カーボンニュートラルに関する国の最新動向および支援策について）
　四国経済産業局資源エネルギー環境課カーボンニュートラル担当より、ＧＸ関連施策の方向性、分野別投資戦略の概要、支援メニューの紹介について説明

＜座長＞
　１社だけではなく、地域として何ができるかというところをご意見いただければと思う。

＜構成員１＞
　議事２－２の説明について、代替素材となる可能性を有している木質パルプを紹介していただけるということなのか。

＜構成員２＞
　具体的な商品の紹介ではなく、原材料を転換する際に支援するということである。

＜構成員１＞
　主要原材料の転換による効果は、どのように反映していくのか。

＜事務局＞
　主要原材料の転換による効果は、今後の計画策定の中で検討し、ご相談させていただきたい。

＜座長＞
　効果の値は、正確なことは難しいところではあるが、いろいろな面でこれから検討していただければと思う。

＜構成員３＞
　会社での脱炭素化に向けた取組として、アンモニアの導入やバイオマスを検討している。

＜構成員４＞
　会社での脱炭素化に向けた取組として、石炭をガス化することでＣＯ２を削減あるいはキャプチャーする事業を行おうとしている。

＜構成員５＞
　ＣＯ２をトラップすることは１つの大きな施策であるが、還元するということも考えていかなければならない。

＜構成員２＞
　温室効果ガス排出量削減の寄与度が大きいスコープ１、２の部分から始めていこうというのが、港湾脱炭素化推進計画の動きであると理解している。ＣＯ２のキャプチャーについては、今後の計画の中に盛り込む内容と思われる。

＜構成員６＞
　船舶のカーボンニュートラルを行うとなれば、少しのＣＯ２しか削減できないが、先行投資を行い、新しい船舶を造る際にＣＯ２削減に寄与したい。その際に、補助金などの支援をお願いしたい。

＜構成員７＞
　本質から少しずれるかもしれないが、中小零細企業は、高齢化により事業継承が考えられていない。さらに、ＤＸに加えてＧＸとなれば、かなりの負担となるため、手厚い補助をお願いしたい。

＜構成員２＞
　事業継承は大きな問題であると理解している。事業者にしっかりと寄り添い、単なる資金面の支援だけではなくて、継続的に寄り添える支援体制の構築が必要と考えている。

＜構成員８＞
　阿南市は、令和３年にカーボンニュートラル宣言をしているため、橘港港湾脱炭素化については、重要なことと考えている。また、計画策定によりカーボンニュートラルはもちろん、企業の振興にも繋がると考えているため、今後も協力していきたい。

＜構成員９＞

徳島県では、水素に関する取組を全国に先駆けて展開している。国全体としても、さらに水素を推進している段階である。できるところから進めていくということで、ＥＶや蓄電池などの今の技術を活用して、総合的に推進している。港湾のカーボンニュートラルについては、地域脱炭素に繋がるのではないかと考えているため、港湾の脱炭素化に向けて、しっかりと協力していきたい。

＜構成員１０＞

港湾の脱炭素化を実現するためには、官民が一体となって取り組んでいくことが重要である。国も国土交通省、経済産業省、環境省が連携し、進めている取り組みである。

＜座長＞

身近な要望や支援策があれば活用し、地域でのＣＯ２削減に向けて取り組みができればと思う。

以上